

ごみ との 戦い

文化生活の向上
によって、いろいろなごみはふえるばかり……。

現代社会はごみとの戦いといえます。

私たちが意外に知らない、処理場処理の方法、働く人たちの苦労はたいへんなものです。

可燃衛生センター、燃えるごみの処理風景



広域版

No. 1

可茂地域 広域市町村

話し合いで協同事業を推進

住みよい社会めざしさらに充実

私たちの日常生活の範囲は、産業、交通、通信の急速な進展により、市町村の区域を越えて広がるとともに、生活様式も高度化してきました。このように地域社会の激しい移り変わりと、住民生活の広域化に市町村は「より豊かで、明るい生活、住みよい地域社会」の建設にあらゆる努力をしてその実現をはからなければなりません。

そのためには、連帶する市町村が共通の問題を広く話し合って、住民の新しい時代の要請に答える必要がでてきたのです。たとえば、し尿、ごみ処理の問題のように、ひとつの中だけではなくなかなか解決できないことがあります。

ごみ処理場の建設でも、一市町村単独で行なえば、施設経費が割高となって財政面でも苦しく、また、運営面でもコスト高となって経営がむずかしくなります。

そのため、市町村の広域的な協同事業として進めれば、財政面でも運営面でも成り立つります。

このような考え方から私たちの可茂地域内では、昭和四十五年に美濃加茂市を中心とした加茂郡と、可児郡の十一市町村による可茂地域広域市町村計画（可茂地域広域行政推進協議会）で基本構想を

策定）を作りました。この計画は、昭和五十五年の人口を十八万人と予想したこの地域内の産業、生活環境の整備などを進め、平均化した発展と住民福祉を基本に、共通の悩みを解決し

ようとするものでした。

そのための広域行政を進めるとともに、施設の充実をはかり、魅

力ある豊かな住みよい社会を築こうとするものであります。

■ 美濃加茂市
市内いたるところでごみが山と化し、美觀をそこねていますが、私たちの生活によってごみが出るからには、私たちで正しく処理する責任があります。

現在、ごみは可燃物と不燃物とに分けて収集が行なわれ、不法投棄は少なくなつたものの、いろいろな規則が守られていないのが現状です。

市では、週一回の可燃物、二ヶ月に一回の不燃物収集日を定め指定の場所に出していただきいま

すが、何日も放置され、悪臭を放つ例もあり、付近の皆さんにめいわくをかけています。

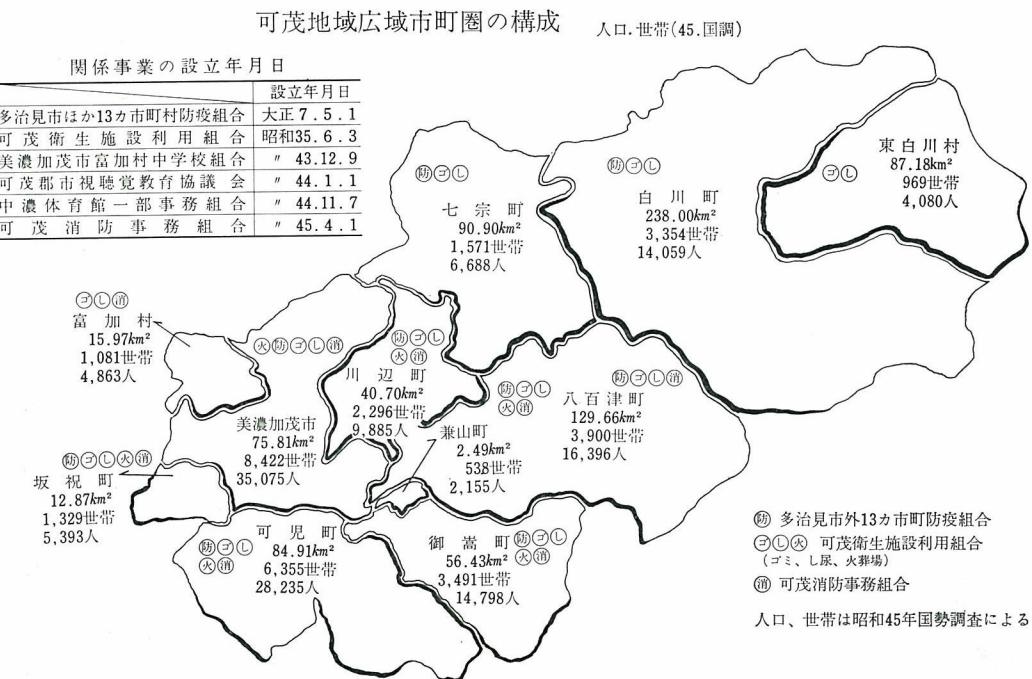
▼決められた日に、決められた場所に出しましょう。

▼可燃物、不燃物は必ず分けて出しましょう。

坂祝町

町のごみ処理は住民係が担当し数年前からダブルを使って職員が収集作業を行なつてきました。始めは出されるごみの量も少なく、収集作業もスムーズに行なえましたが、年ごとに量が増え、いまでは五日いちど、専門の運転手を依頼し職員がひとりついて作業を行なっています。

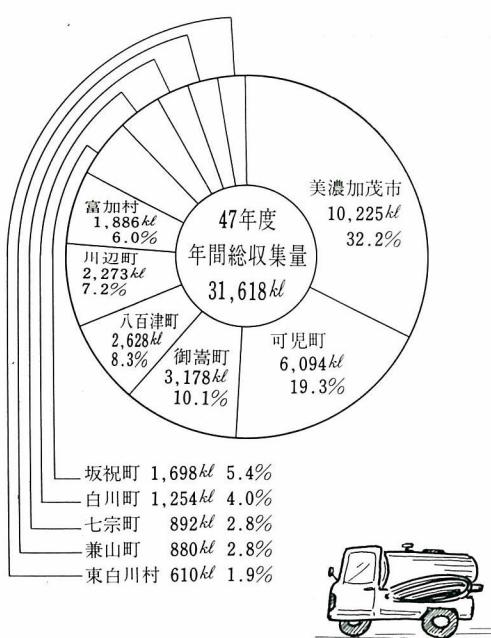
しかし、今後はますます増える



市・町・村

つづみ処理も事業のひとつ きれいな郷土をさえる可茂衛生センター

市町村別し尿の年間総収集量



ごみは文化のバロメーターとはよくいわれることですが、今まではそんなことをいってはいられません。爆発的にふえ続けるごみのために、私たち市町村ではその対策に苦慮しているのが現状です。こうしたことから、美濃加茂市、可児郡、加茂郡がこのごみ公害に対処するため、広域市町村事業として「可茂衛生センター」を設立し運営を続けています。

同センターは、昭和三十五年一月に開設され、年間総収集量は31,618kL、47年度は47歳の処理能力を有するし尿処理施設、十箇所の燃えるごみを処理する塵芥処理施設を建設し運営が始まりました。

開設当日はこの処理能力で十分応じられたものの、経済の高度成長に伴って文化生活も年ごとに向上し、大量消費時代、使い捨て時代などといわれるよう、現代では一般家庭をはじめ、会社、工場から大量のごみがはき出されています。

たとえば、可燃物を例にとってみると、同センターが扱った昭和四十四年度の収集量は、三千六百トナードであったのが、昭和四十七年度ではこの一・五倍にあたる五千四百トナードに達しています。わずか四年の間にこのふえようふえよう、この処理能力ではすから、今後ますますふえ続けることは明らかといえましょう。

これは、一世帯平均にすると約四十七キロを出したことになり、今百五十五トナードにも達します。

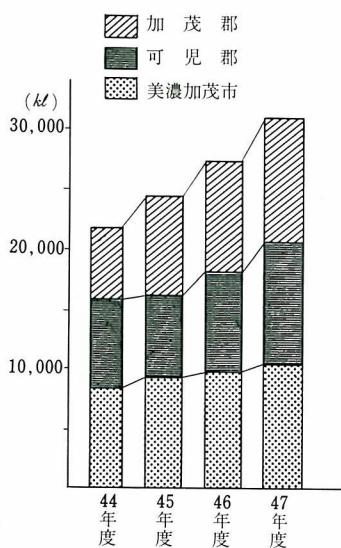
同センターの不燃物収集力所は十一市町村に約七百あります。昭和四十七年度に収集されたごみは、ガラス類七百七十二トナード、鐵くず類七百八十三トナード、合わせて千五百五十五トナードにも達します。

戸で出たものをそれぞれ運んでいたところになっていますが、一部の家庭では運ぶ手間もかかるところから、川や用水、原野などに捨てる例が多くあり将来は収集車によるごみ収集が必要になるでしょう。

また、焼却するものの中に不燃物を混ぜないと、いうことが決まっています。

住みよい環境をつくるため、みんなが考え、いつも相手の気持ちになつてやることが必要といえます。

年度別し尿収集量



市・町・村

川 辺 町

不燃物の収集は、ガラス類と鉄くず類を必ず別々の袋に入れて、

応じきれず、昭和四十五年には一日五十トナードを処理する施設の増設を行いました。

しかし、最新の技術を誇る機械が導入され、増設されたものの、量の増加とともに、一方ではごみの質の多様化という問題が起きました。

そこで、一般の事務職員が収集を行なわないで、業者に委託するような体制づくりを考えいかなければならぬでしょう。

富 加 村

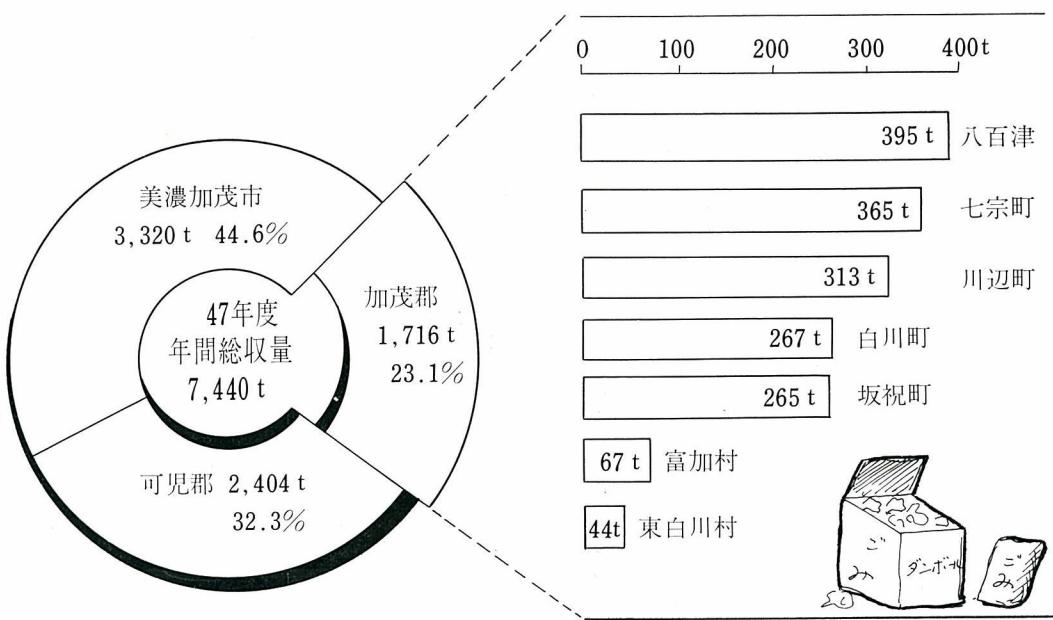
村では、一日の焼却能力約五トンの焼却場を工費約一千万円をかけて施工し、八月九日の完成式以後毎日処理しています。

ごみの収集は村では行なわず各戸で出たものをそれぞれ運んでいたところになっていますが、一部の家庭では運ぶ手間もかかるところから、川や用水、原野などに捨てる例が多くあり将来は収集車によるごみ収集が必要になるでしょう。

また、焼却するものの中に不燃物を混ぜないと、いうことが決まっています。

住みよい環境をつくるため、みんなが考え、いつも相手の気持ちになつてやることが必要といえます。

市町村別可燃物の年間総収集量



後ますます増えることが予想されます。

また、し尿処理施設は現在一日五十キロを処理する方式と、四十七キロを処理する方式のふたつによつてフル運転が続けられていま

す。

しかし、し尿にあつても収集量は年ごとに増加し、昭和四十七年六百キロです。

これは、一世帯九百四十九戸、

ひとり当たり三百三十三戸したことになります。

いままで

自分に責任として

ください。

いままで、自分に責任として

いたいろいろな生活不用品も、現在では行政的に処理すべきものとしての要求に変わり、そ

のひとつとして可茂衛生センター

ます。

この数字は、すでに処理能力の

限界に達し、現在施設の増設工事

が行なわれています。

可燃物、不燃物、そしてし尿、

いずれをとっても私たちの生活に

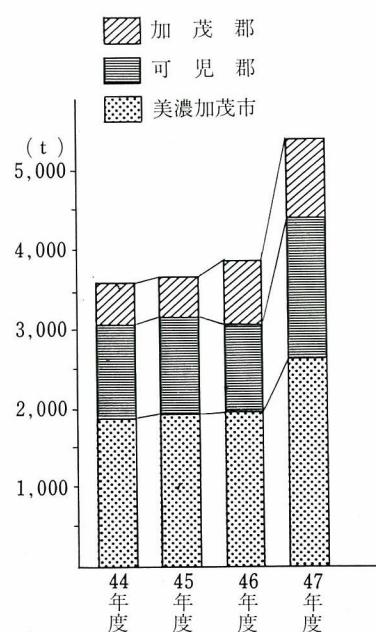
直接関係の深いものばかりといえ

ます。

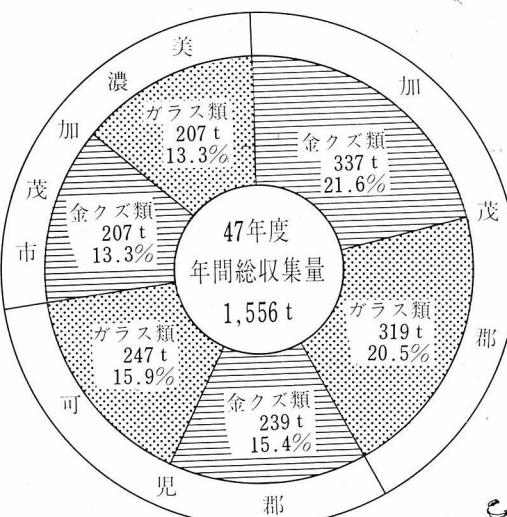
ひどい当たり三百三十三戸出た

ことになります。

年度別可燃物収集量



不燃物収集の状況



市・町・村

可燃物は、町で販売する「青色のビニール袋」を使用し、燃えないとこみは絶対入れないようしてください。そして残飯など水分の多いものは、水切りして出すよう心がけましょう。

最近は、こうした処理により捨てられるごみは少くなつたもののまだ、人目につかない場所に散乱したごみの山をみかけます。それが社会のルールを守つて、こうしたことがないようにしました。

町では毎週月曜日と木曜日にブルーの収集車を走らせ可燃物の収集を行なっています。

出されるごみは、始めのころに比べるとだいぶよくなっていますが、最近水分の非常に多いものが目につきます。家庭で十分水切りをして新聞紙などでつぶんで袋に入れていただくと、処理するのに助かります。

また、川や道路のごみが目につき、特に川の両岸はビニール袋の花さかり。町内各部落の婦人会が

せめて水だけは切って

悪化するごみの質・処理に四苦八苦

収集車によって連日運びこまれるし尿や可燃物、不燃物は、最近の消費生活を反映してかぶえる一方です。

それとともに、ごみの質も悪化する傾向をみせ、量の増加と処理能力の低下に頭を痛めています。

現在、焼却能力をはるかに下回る収集にもかかわらず、多くの燃料費と人手を費やして処理に追われているのが現状です。

規模を大きくすれば多くの費用がかかり、無理に能率をあげれば煙による二次公害の恐れと、処理経費が多くかかり、何とかしなければならない問題をいま同センターでは抱えているといえます。

燃えにくい可燃物

収集されたごみは袋ぐるみ焼却炉で焼くわけですが、最近は特に燃えにくく係の人たちを困らせています。

収集は決められたビニール袋によつて行なわれていますが、その内容が悪くはなはだしいのは水分といつたものもあります。

また、ビンや缶類など燃えないものまで入っている例さえあります。それでも水分が多くなるといつたものが目だつようです。

特にお勝手から出るごみは、何としても水分が多く、この水分を炉で燃やすために燃焼能力が落ちます。



廃物の山と長い煙突が可茂衛生センターの象徴です。

ごみは燃えやすくして

出していただくごみは家庭の主婦の皆さんですが、これは燃やして処理するものだという気持になつてください。

セントラで働く人々は、この腐敗水との戦いが続き、一方、最近は収集場所でも袋から悪臭をはなつ水がもれ、周囲の人たちに不快感を与え問題になつています。

ごみが集められる場所、集める方法、処理の方法、そしてその仕事に従事する人たちのことを考えます。

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

次に燃えないものが入っていると炉の中にひつかかり能率が落ち

市・町・村

■白川町

収集車によるごみ集めと、町内一齊清掃日などの実施によって、慣習となつていたごみの堆積場が一掃され、清潔な町づくりに一步前進をしたかの感があります。

積極的に川の掃除を行なっていますが、その苦労を考えて、川や道路へは絶対に捨てないようにしてください。

美しい町づくりは、まず身近なところから、お互いに気をつけてください。

■八百津町

奥さん、これだけは必ず守つてお互いに迷惑をかけないようにしてください。

(+) 不燃物の収集は二ヵ月に一回です。

この場合、しつかり荷造りし袋の表や、エフに自分の氏名と部落名、そして廃品名を記入してください。

(+) 収集日の前日に出し、雨降りの場合はぬれないようおねがいします。

(+) 燃えるごみの収集は毎週火曜日です。ごみを出すのは収集日にしてください。

ごみを野宿させると野犬に食い荒らされたり、散乱したりし近所にめいわくになります。

袋の口はしっかりと結び、当日道路わきに出してください。

へ移し、乾燥がむずかしい場合は

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

ごみが余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

紙類が余った水分を吸いとるとともに、燃やす効力も高くなり処理がしやすくなります。

るとともに、スプレーの空缶などは燃焼中に爆発し、非常に危険です。

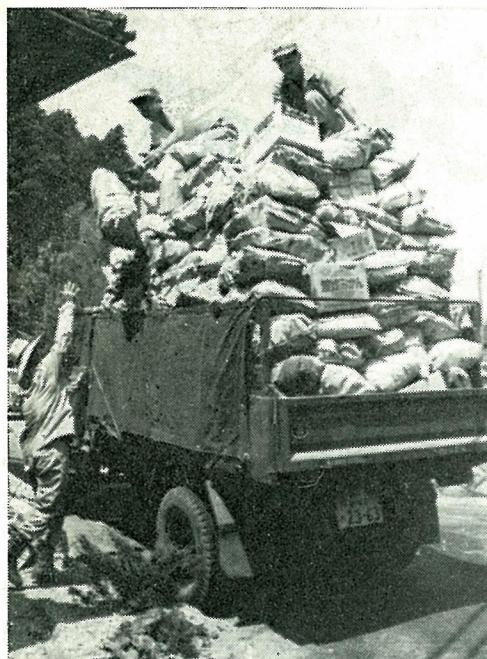
このように、ひとりひとりのマナーと、ちょっとした心づかいで解決する問題でも、十一市町村、三万三千世帯が対象ともなれば、良い面、悪い面に傾むけば大きな問題となることを忘れてはなりません。

施設の能力を有効に生かすためには、一家の主婦の皆さん的心づかいが必要といえましょう。

不燃物は仕分けをしっかりと

定期的に行なっていますが、これも内容の悪さが処理能力を著しく低下させています。

同センター七百の収集力所の中には、まだガラス類と鉄くず類の



時代とともに不燃物の量も増える一方です。

区別されされていないところがあるようです。

機械的に処理されている段階でこうした混ざったものがあると、能率が落ち、処理コストが高くなってしまいます。

今後も、区別していないものはいつさい収集しないことになります。

また、ビンや缶の中に残っている水や汚物は、必ず空けて出すようになります。

収集場所に悪臭があふれ、多くの人たちがめいわくすることも考えてあげたいものです。

回収されなかつたものは、個人の責任ですから、早めに引きとり周囲の美観をそこねないよう気をつけましょう。

回収されたものは、個人

の収集場所に悪臭があふれ、多く

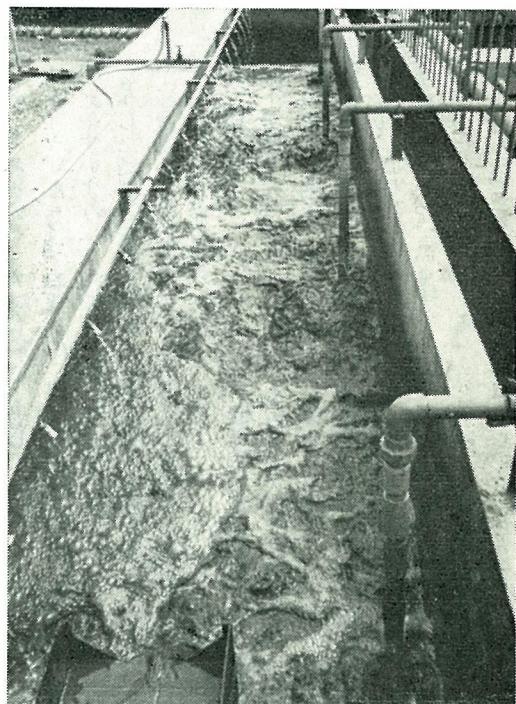
の人がめいわくすることも考

えてあげたいものです。

し尿処理は、何段階にも分けて行ないます。

から、せつかくきれいになつたところが再びごみの山になるということも考えられますのでみんなできれいにしたところは「一度と捨てないよござな」を心のモットーにして、さらにきれいな町をめざして進みたいのです。

商店街を中心につながるまちなみ包装をなくする運動は、町内ごみの堆積にも大きく影響しますので、お買物には買物かごか、ふろしきを持参して、二重三重の包装はなるべくさけるようにしてください。



市・町・村

いま村で問題となつてているのは収集のための場所といえます。

不燃物、可燃物とも決まつた日に決まつた場所に出していくだけ

いますが、反面周囲のひとた

ちにめいわくを与えています。

水分の多い可燃物からは、袋が破れ悪臭のある水が流れ、不燃物である袋からも、くさい水が多くでいるのです。それは、ビンや缶の中に残つてゐるものですが、収集後の数日間もまわりの人たちに不快感を与え、何とかしてほしとの苦情が多くあります。

いろいろな事業は、市町村の境界を越え範囲や規模が大きくなりつつあります。したがつてこれからは、他市町村のことでも大いに関心を持ち協力体制を考えていかなければならぬといえましょう。

そういう意味で、加茂郡内七ヵ町村で組織している広報連絡協議会と美濃加茂市ではかねてから広域版の発行を計画し準備していましたが、やつと実現しました。

この広域版のテーマの設定から企画、取材、写真、割付けなどすべて各市町村担当者で行ないました。いろいろな考え方の違いや、広報活動そのもの的内容の違ひの中で、とにかく第一号ができたのです。

この広域版のテーマの設定から企画、取材、写真、割付けなどすべて各市町村担当者で行ないました。いろいろな考え方の違いや、広報活動そのもの内容の違ひの中で、とにかく第一号ができたのです。